



Sunday School クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.36 2023. 6. 25 発行

「苦しみがわかるイエスさま」

ヘブライ人への手紙2章14～18節

ごきげんよう!

牧師 梅津 裕美

キリスト教会が大切にしてきた信仰の基本に三要文(さんようもん)と呼ばれる「十戒、主の祈り、使徒信条」があります。6月からその一つ「使徒信条」の学びを始めています。これは、聖書に基づいて教会が何を信じているのかをまとめた大切な告白です。そして、この「使徒信条」によって私たちは聖書を正しく理解できます。聖書とは切り離せない告白なのです。その中に「ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ」という告白があります。聖書が伝えるイエスさまのご生涯のクライマックスはこの「十字架」でした。ユダヤ教の指導者たちは、当時の支配者ローマ帝国の総督ピラトにイエスさまを引き渡して死刑にするように求めます。罪も無いのに、イエスさまは極悪人が裁かれる十字架にかけられることになり、服を脱がされ、むち撃たれ、重い十字架を背負いました。でも一番の苦しみは、十字架で神さまから裁かれて見捨てられた絶望、死の世界に堕ちて行くことでした。イエスさまは、私たちに代わって、それほどまでの苦しみを受けてくださいました。

今、苦しんでいるあなた、イエスさまはあなたと共にいてくださるだけでなく、苦しみの極みを経験された方ですから、あなたの苦しみのすべてをわかってくださいます。そして、苦しんでいるあなたを見捨てずにその苦しみから救ってくださるのです。おともだちが苦しんでいる時に助けてあげたいと思っても、自分の小さな力では助けられないことがあります。そんな時、この聖書の言葉を思い出します。「イエスさまご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人々を助けることができになるのです。」(ヘブライ2:18)



あきらめないで、すべての苦しみを知っておられるイエスさまに助けを求めませんか。

堀内長老からのメッセージ

6月13日に横浜の横浜指路教会で荻窪清水教会も関係している全国90の教会の会議があり、梅津先生と共に会議に出席しました。この会議でうれしい出会いがありました。1987年から1998年まで荻窪清水教会に属していたOさんが、今は藤枝教会(静岡)の長老として出席していました。25年ぶりの再会でした。Oさんは都内の大学に進学後、教会の近くに住んでいましたが、その後郷里に帰り、現在に至っています。荻窪清水教会にいた時は日曜学校の教師をしていました。教会ではこうした出会いがこの上ない喜びです。この世の団体では会員でなくなると名前が消されて、それっきりですが、荻窪清水教会では50年史にも、今計画している60年史にも一人一人の洗礼を受けた日などを記録しています。荻窪清水教会にいた期間がたとえ短期間であっても、そうした方々の歩みは、まちががなく教会の歩みに記憶されるのです。今は会えなくても、連絡をくださることがあります。私たちは教会の兄弟、姉妹としてそうした方々のことを覚えて、今もこれからも祈り続けます。

